

# I 慢性腎疾患の診断・治療に関する研究

## — 昭和59年度の総括 —

分担研究者

酒 井 糾 (北里大学病院腎センター)

慢性腎疾患の診断・治療に関する研究の本年度の目標は、参加を得ている全国20施設(表1, 表2)各々から出来るだけ多くの症例の腎組織のブロックおよび臨床経過表の提出をお願いすることであったが、初期の目標通りMPGN, IgA腎症いずれも100例以上の症例が集計された。

MPGN症例については清瀬小児病院の伊藤拓先生より、また、IgA腎症については神戸大学小児科の吉川徳茂先生から、本年度のまとめとして各々報告されている。また今回、信州大学病理の重松秀一先生に、提出された組織について生検組織診断をお願いし、その検討結果が詳細に報告された。

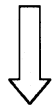
HSPNについては、アンケート調査により、特にネフローゼ症候群を呈した症例についての予後調査が行われ、その結果が北里大学小児科の河西紀昭先生より報告された。

FGSについては初年度、アンケート調査によりFGSの実態が報告されたが、本年度は各研究協力者によるFGSに関連した研究をお願いし、その内容についてとりまとめたものを近畿大学小児科の牧淳先生に御報告いただいた。

また、分担研究者・酒井は学校検尿制度の社会医学的側面と題して、神奈川県での検討結果について報告したが、本年度は特に、県内の小児腎不全発症状況を調査し、その医療費用を学校検尿に要する医療費用と比較することで効果分析を行った。

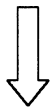
今や、慢性に経過する疾患にあっては腎疾患も含めて、CureよりもCareの時代と言われている。従って、我々、小児腎臓病の診断・治療そして管理に携わる者は、Cure Systemの研究のみならず、Care Systemの研究、そしてそれらの充実にも目をむけなければならない時期にさしかかっているように思えてならない。従って、今後の班研究にあっては、かかる観点にたった仕事に対しても目をむけるべきと考える。

尚、本年度は各参加施設の症例研究や、基礎研究のまとめを業績集として小冊子とすることが出来た。ここに研究協力者各位の御協力を感謝する。



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



### 1 慢性腎疾患の診断・治療に関する研究

昭和 59 年度の総括

分担研究者

酒井糾(北里大学病院腎センター)

慢性腎疾患の診断・治療に関する研究の本年度の目標は、参加を得ている全国 20 施設(表 1, 表 2)各々から出来るだけ多くの症例の腎組織のブロックおよび臨床経過表の提出をお願いすることにあつたが、初期の目標通り MPGN, IgA 腎症いずれも 100 例以上の症例が集計された。

MPGN 症例については清瀬小児病院の伊藤拓先生より、また、IgA 腎症については神戸大学小児科の吉川徳茂先生から、本年度のまとめとして各々報告されている。また今回、信州大学病理の重松秀一先生に、提出された組織について生検組織診断をお願いし、その検討結果が詳細に報告された。

HSPN については、アンケート調査により、特にネフローゼ症候群を呈した症例についての予後調査が行われ、その結果が北里大学小児科の河西紀昭先生より報告された。

FGS については初年度、アンケート調査により FGS の実態が報告されたが、本年度は各研究協力者による FGS に関連した研究をお願いし、その内容についてとりまとめたものを近畿大学小児科の牧淳先生に御報告いただいた。

また、分担研究者・酒井は学校検尿制度の社会医学的側面と題して、神奈川県での検討結果について報告したが、本年度は特に、県内の小児腎不全発症状況を調査し、その医療費用を学校検尿に要する医療費用と比較することで効果分析を行った。

今や、慢性に経過する疾患にあっては腎疾患も含めて、Cure よりも Care の時代と言われている。従って、我々、小児腎臓病の診断・治療そして管理に携わる者は、Cure System の研究のみならず、Care System の研究、そしてそれらの充実にも目をむけなければならない時期にさしかかっているように思えてならない。従って、今後の班研究にあっては、かかる観点にたった仕事に対しても目をむけるべきと考える。

尚、本年度は各参加施設の症例研究や、基礎研究のまとめを業績集として小冊子とすること

が出来た。ここに研究協力者各位の御協力を感謝する。